

2013年3月期第2四半期 決算プレゼンテーション

平成24年11月15日

加賀電子株式会社(東証1部:証券コード8154)

〒101-8629 東京都千代田区外神田3-12-8

TEL:03-4455-3131

FAX:03-3254-7132

<http://www.taxan.co.jp>

2013年3月期 第2四半期 決算ハイライト

■ 連結損益計算書の業績比較

(単位:百万円)

	2012年3月期Q2		2013年3月期Q2		増減	
	金額	構成	金額	構成	増減	増減率
売上高	116,237	100.0%	103,845	100.0%	-12,392	-10.7%
売上原価	101,913	87.7%	91,515	88.1%	-10,398	-10.2%
売上総利益	14,323	12.3%	12,329	11.9%	-1,994	-13.9%
販売費及び一般管理費	13,551	11.7%	12,800	12.3%	-751	-5.5%
営業利益	771	0.7%	-470	-0.5%	-1,241	-161.0%
営業外収益	381	0.3%	432	0.4%	51	13.4%
営業外費用	257	0.2%	318	0.3%	61	23.7%
経常利益	895	0.8%	-355	-0.3%	-1,250	-139.7%
特別損益	50	0.0%	-324	-0.3%	-374	-748.0%
税金等調整前当期純利益	945	0.8%	-680	-0.7%	-1,625	-172.0%
法人税及び住民税	677	0.6%	530	0.5%	-147	-21.7%
法人税等調整額	-62	-0.05%	238	0.23%	300	-483.9%
少数株主利益	29	0.02%	-75	-0.07%	-104	-358.6%
四半期純利益	301	0.3%	-1,373	-1.3%	-1,674	-556.1%

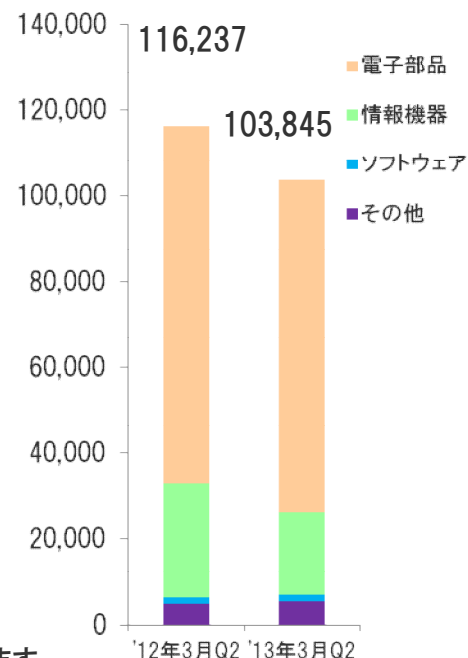
連結事業部門別業績比較

(単位:百万円)

	2012年3月期 第2四半期		2013年3月期 第2四半期		増減	
	売上高	構成比	売上高	構成比	増減額	増減率
	セグメント利益		セグメント利益			
電子部品	83,411	71.8%	77,783	74.9%	-5,628	-6.7%
	636	82.5%	343	-73.0%	-293	-46.1%
情報機器	26,557	22.8%	19,270	18.6%	-7,287	-27.4%
	-111	-14.4%	-337	71.7%	-226	203.6%
ソフトウェア	1,533	1.3%	1,491	1.4%	-42	-2.7%
	163	21.1%	-403	85.7%	-566	-347.2%
その他	4,734	4.1%	5,299	5.1%	565	11.9%
	142	18.4%	-27	5.7%	-169	-119.0%
計	116,237	100.0%	103,845	100.0%	-12,392	-10.7%
	771	100.0%	-470	100.0%	-1,241	-161.0%

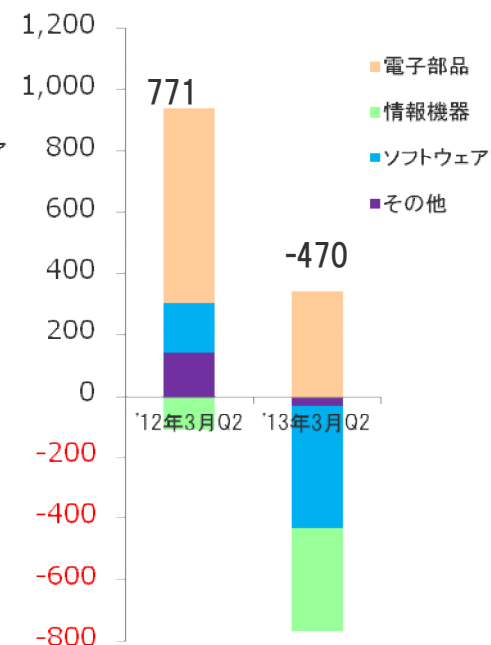
※セグメント利益は調整前の数字を記載し、合計については調整後の数字を記載しております。

売上高



(単位:百万円)

セグメント利益



主な増減のポイント

■「電子部品事業」(半導体・一般電子部品・EMSなどの開発・製造・販売)

車載関連向け電子部品や半導体および海外における事務機器や空調機器向けなどのEMSビジネスの売上高の伸長がありましたが、国内におけるアミューズメント機器向け電子部品や半導体などの受注が減少した結果、売上高は777億83百万円となりました。

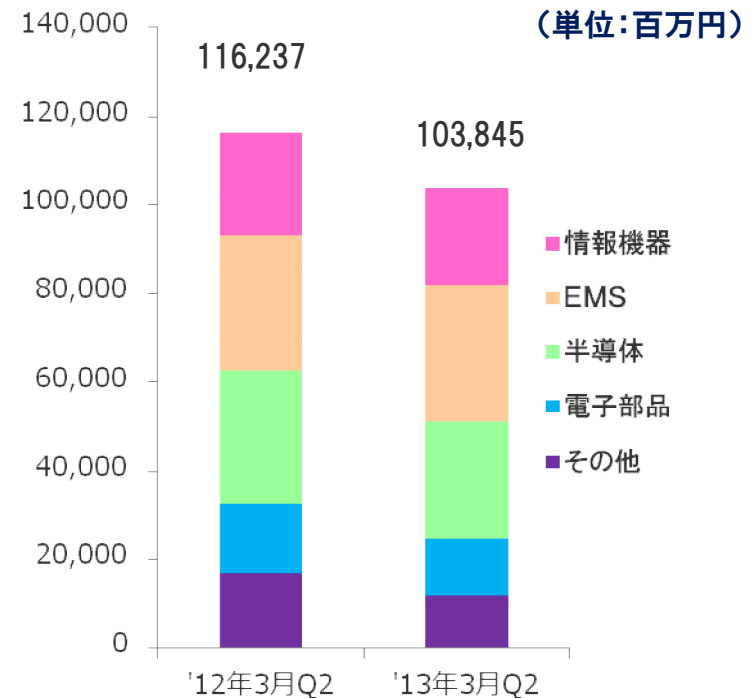
■「情報機器」(パーソナルコンピューター・PC周辺機器・写真や映像関連商品及びオリジナルブランド商品などの販売)

パーソナルコンピューターの販売の落ち込みや家電量販店や専門店向けメモリーカード関連商品の商流変更の影響などにより売上高が減少した結果、売上高は192億70百万円となりました。

【ご参考】連結商品分類別売上高実績比較

(単位:百万円)

	2012年3月期 第2四半期		2013年3月期 第2四半期		増減	
	売上高	構成比	売上高	構成比	増減額	増減率
情報機器	26,117	22.5%	21,851	21.0%	-4,266	-16.3%
EMS	28,878	24.8%	30,943	29.8%	2,064	7.2%
半導体	30,655	26.4%	26,342	25.4%	-4,313	-14.1%
一般電子部品	16,603	14.3%	12,611	12.1%	-3,991	-24.0%
その他	13,982	12.0%	12,096	11.6%	-1,886	-13.5%
計	116,237	100.0%	103,845	100.0%	-12,391	-10.7%



主な増減のポイント

■「情報機器」前年同期比 ▲42億66百万円(-16.3%減)

家電量販店や専門店向け主力メモリーカード関連商品の商流変更に加え、パーソナルコンピュータや地デジチューナーやコンパクトデジタルカメラなどの売上高減少により、売上高は218億51百万円となりました。

■「EMS」前年同期比 +20億64百万円(7.2%増)

海外における日系空調機器メーカー向けなどのEMSの受注増加により、売上高は309億43百万円となりました。

■「半導体」前年同期比 ▲43億13百万円(-14.1%減)

国内におけるアミューズメント機器向け半導体の受注の減少などにより、売上高263億42百万円となりました。

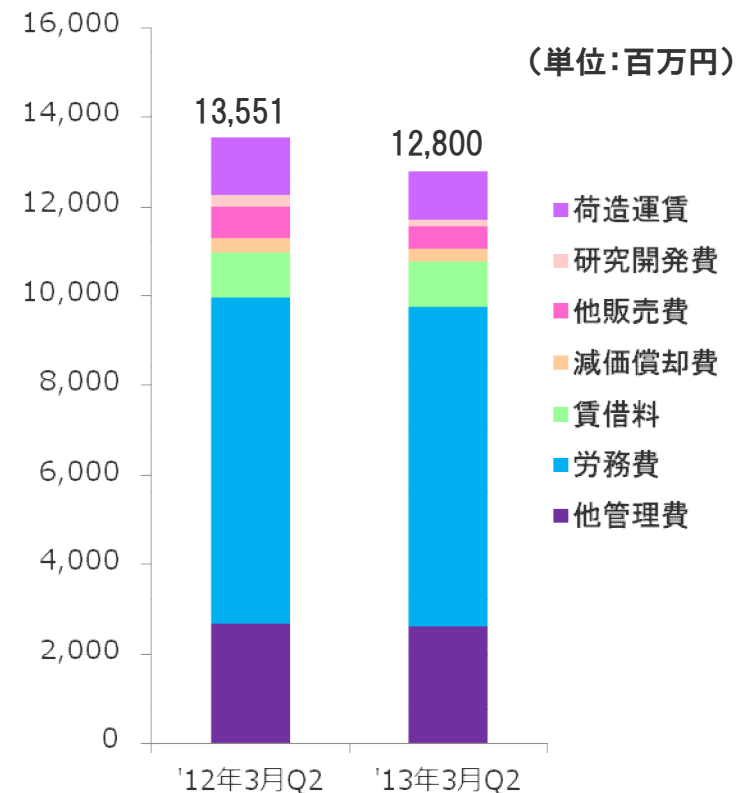
■「電子部品」前年同期比 ▲39億91百万円(-24.0%減)

海外での日系デジタル家電メーカー向け電子部品の受注が減少した結果、売上高は126億11百万円となりました。

販売管理費の状況

(単位:百万円)

	2012年3月期 第2四半期		2013年3月期 第2四半期		増減	
	金額	構成比	金額	構成比	増減額	増減率
荷造運賃	1,284	9.5%	1,096	8.6%	-188	-14.6%
研究開発費	258	1.9%	144	1.1%	-114	-44.2%
その他販売費	698	5.2%	498	3.9%	-200	-28.7%
販売費計	2,240	16.5%	1,738	13.6%	-502	-22.4%
減価償却費	335	2.5%	280	2.2%	-55	-16.4%
賃借料	995	7.3%	1,036	8.1%	41	4.1%
労務費	7,312	54.0%	7,130	55.7%	-182	-2.5%
その他管理費	2,669	19.7%	2,615	20.4%	-54	-2.0%
管理費計	11,311	83.5%	11,061	86.4%	-250	-2.2%
販管費合計	13,551	100.0%	12,800	100.0%	-751	-5.5%



主な増減のポイント

■管理費

労務費: 前年同期比 1億82百万円減少。グループ社員数: 596名減少(5,550名→4,954名)

減少要因: 海外EMS工場で(中国・タイ・マレーシア・チェコ)で563名減少。

* 港加賀電子196名減少、KAGA(THAILAND)188名減少、東莞勁捷電子124名減少など

荷造運賃費: 前年同期比 1億88百万円減少。売上高の減少による。

貸借対照表の業績比較

貸借対照表

(単位:百万円)

	'12年3月末	'12年9月末	増減額		'12年3月末	'12年9月末	増減額
流動資産	94,374	83,811	-10,563	流動負債	59,474	53,170	-6,304
現金及び預金	9,775	8,985	-790	支払手形・買掛金	41,748	35,910	-5,838
受取手形・売掛金	55,979	48,338	-7,641	短期借入金	11,084	12,129	1,045
商品及び製品	17,104	16,576	-528	その他	6,642	5,131	-1,511
仕掛品	334	664	330	固定負債	7,303	6,456	-847
原材料及び貯蔵品	4,115	4,618	503	長期借入金	2,833	1,934	-899
その他	7,067	4,630	-2,437	その他	4,470	4,522	52
				負債合計	66,777	59,627	-7,150
				株主資本			0
				資本金	12,133	12,133	0
固定資産	20,340	21,149	809	資本剰余金	13,912	13,912	0
有形固定資産	9,487	9,843	356	利益剰余金	25,038	23,250	-1,788
無形固定資産	2,245	2,499	254	自己株式	-1,333	-1,333	0
投資等	8,607	8,806	199	評価・換算差額	-3,341	-3,951	-610
				少数株主持分	1,526	1,321	-205
				純資産合計	47,936	45,333	-2,603
資産合計	114,714	104,961	-9,753	負債・純資産合計	114,714	104,961	-9,753

・連結キャッシュフロー計算書(2012年3月期Q2及び2013年3月期Q2)の比較

(単位:百万円)

	2012年3月期 第2四半期	2013年3月期 第2四半期	増減額
営業活動によるキャッシュフロー	-2,446	3,293	5,739
投資活動によるキャッシュフロー	-1,449	-3,695	-2,246
財務活動によるキャッシュフロー	2,735	-258	-2,993
現金等に関わる換算差額	-383	-129	254
現金等の減少額	-1,544	-789	755
現金等の期首残高	11,796	9,695	-2,101
現金等の期末残高	10,251	8,905	-1,346

主なポイント

- 営業活動によるキャッシュフロー:主に売上債権の減少により、32億93百万円の収入となりました。
- 投資活動によるキャッシュフロー:有形固定資産の取得などにより36億95百万円の 支出となりました。
- 財務活動によるキャッシュフロー:長期借入金の返済などにより、2億58百万円の支出となりました。

2013年3月期 通期連結業績予想

■2013年3月期 通期連結業績予想

連結損益計算書の計画比較（2012年3月期及び2013年3月期計画）

（単位：百万円）

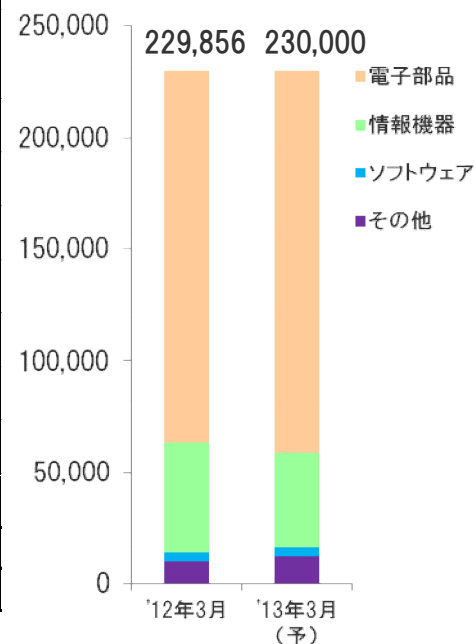
	2012年3月期(実績)		2013年3月期（予想）		前期比	
	金額	構成比	金額	構成比	増減額	増減率
売上高	229,856	100.0%	230,000	100.0%	144	0.1%
売上原価	201,350	87.6%	202,300	88.0%	950	0.5%
売上総利益	28,506	12.4%	27,700	12.0%	-806	-2.8%
販売費及び一般管理費	26,438	11.5%	26,200	11.4%	-238	-0.9%
営業利益	2,067	0.9%	1,500	0.7%	-567	-27.4%
営業外損益	502	0.2%	300	0.1%	-202	-40.2%
経常利益	2,569	1.1%	1,800	0.8%	-769	-29.9%
当期純利益	914	0.4%	300	0.1%	-614	-67.2%

連結事業部門別業績予想

(単位:百万円)

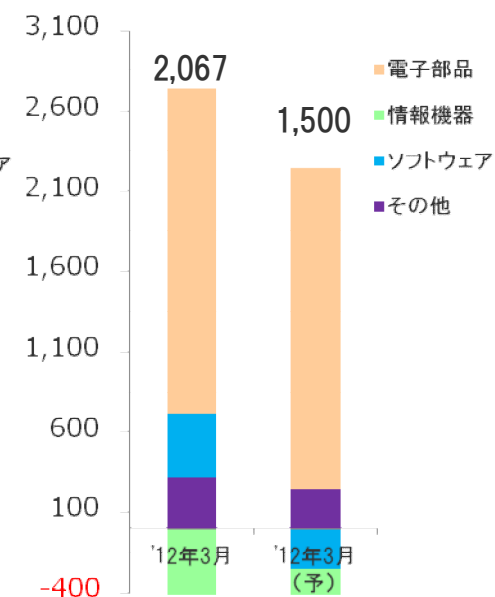
	2012年3月期通期		2013年3月期通期(予想)		増減	
	売上高	構成比	売上高	構成比	増減額	増減率
	セグメント利益		セグメント利益			
電子部品	166,468	72.4%	171,500	74.6%	5,032	3.0%
	2,021	97.8%	2,000	133.3%	-21	-1.0%
情報機器	49,360	21.5%	42,000	18.3%	-7,360	-14.9%
	-533	-25.8%	-500	-33.3%	33	6.2%
ソフトウェア	3,854	1.7%	4,000	1.7%	146	3.8%
	402	19.4%	-250	-16.7%	-652	-162.2%
その他	10,173	4.4%	12,500	5.4%	2,327	22.9%
	319	15.4%	250	16.7%	-69	-21.6%
計	229,856	100.0%	230,000	100.0%	144	0.1%
	2,067	100.0%	1,500	100.0%	-567	-27.4%

売上高



(単位:百万円)

セグメント利益



主な増減のポイント

■「電子部品事業」(半導体・一般電子部品・EMSなどの開発・製造・販売)

車載関連向け電子部品や半導体および海外における事務機器や空調機器向けなどのEMSビジネスの売上高伸長により前年実績を上回る見込みです。

■「情報機器」(パーソナルコンピューター・PC周辺機器・写真や映像関連商品及びオリジナルブランド商品などの販売)

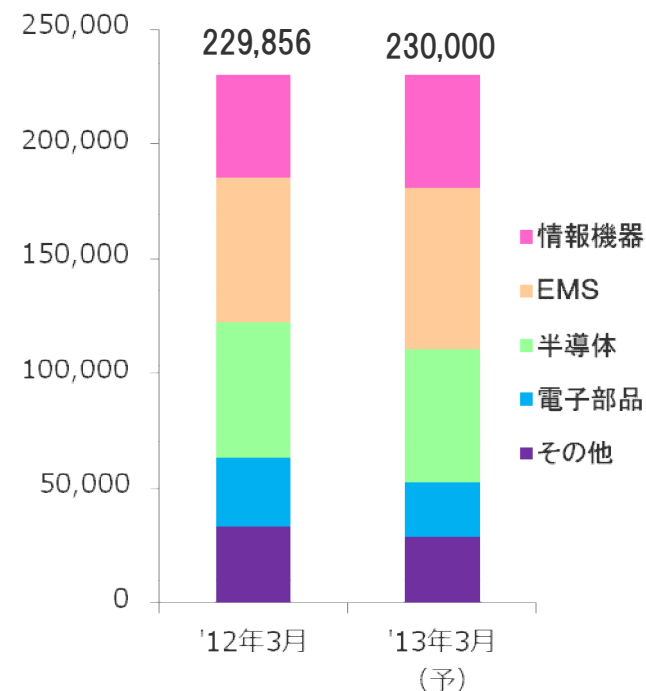
パーソナルコンピューターの販売落ち込みや家電量販店や専門店向けメモリーカード関連商品の商流変更の影響などにより前年の実績を下回る見込みです。

【ご参考】連結商品分類別売上高予想

(単位:百万円)

	2012年3月期(実績)		2013年3月期(予想)		増減	
	売上高	構成比	売上高	構成比	増減額	増減率
情報機器	44,276	19.3%	49,000	21.3%	4,724	10.7%
EMS	62,655	27.3%	70,000	30.4%	7,345	11.7%
半導体	59,303	25.8%	58,000	25.2%	-1,303	-2.2%
一般電子部品	30,356	13.2%	24,000	10.4%	-6,356	-20.9%
その他	33,264	14.5%	29,000	12.6%	-4,264	-12.8%
計	229,856	100.0%	230,000	100.0%	144	0.1%

(単位:百万円)



主な増減のポイント

- 「情報機器」: コンピュータおよび周辺機器の拡販により、前年同期比+47億24百万円(+10.7%)。
- 「EMS」: 海外EMSの増加により、前年同期比+73億45百万円(+11.7%)。
- 「半導体」: デジタル家電やアミューズメント機器向けの受注減少などにより、前年同期比-13億3百万円(-2.2%)。
- 「一般電子部品」: デジタル家電やアミューズメント機器向けの受注減少などにより、前年同期比-63億56百万円(-20.9%)。
- 「その他」: ゲームソフトやアプリケーションソフトの売上高減少や発売時期の延期などにより、前年同期比-42億64百万円(-12.8%)。

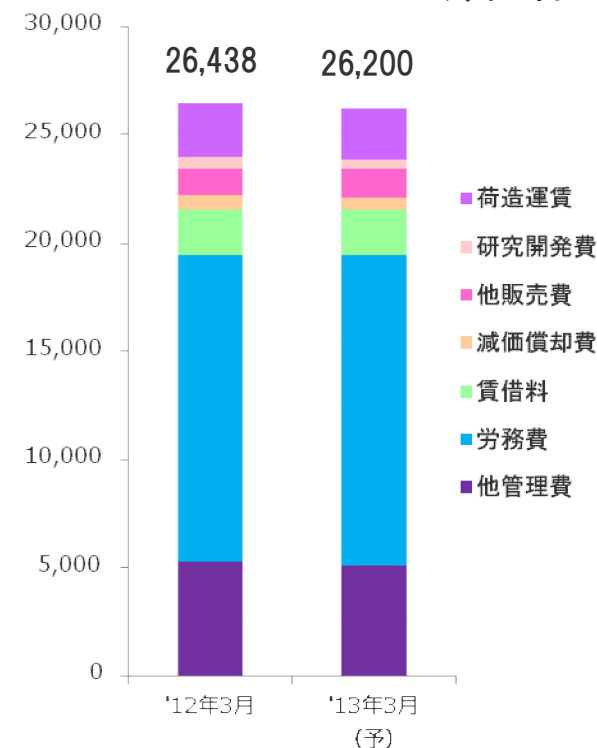
販売管理費の状況

販売管理費（予想）

（単位：百万円）

	2012年3月期(実績)		2013年3月期(予想)		増減額
	金額	構成比	金額	構成比	
荷造運賃	2,450	9.3%	2,337	8.9%	-113
研究開発費	576	2.2%	418	1.6%	-158
その他販売費	1,159	4.4%	1,298	5.0%	139
販売費計	4,185	15.8%	4,053	15.5%	-132
減価償却費	731	2.8%	592	2.3%	-139
賃借料	2,025	7.7%	2,056	7.8%	31
労務費	14,249	53.9%	14,379	54.9%	130
その他管理費	5,247	19.8%	5,120	19.5%	-127
管理費計	22,252	84.2%	22,147	84.5%	-105
販管費合計	26,438	100.0%	26,200	100.0%	-238

（単位：百万円）



主な増減のポイント

- 販売費：研究開発費 エスアイエレクトロニクス製品開発完了などにより減少見込。
- 管理費：減価償却費 固定資産の償却完了などにより減少見込。

トピックス

1. 赤字子会社の現状と対策
2. 加賀電子グループの成長戦略について
3. 新規ビジネスについて

赤字子会社の現状と対策

◆業績不振子会社の再建

(百万円)

会社名	'10年3月期 当期純利益	'11年3月期 当期純利益	'12年3月期 当期純利益	'13年3月期 当期純利益 (当初予想)	'13年3月期 当期純利益 (修正後予想)	状況
加賀コンポーネント株 (連結)	-519	14	-1,028	-194	-207	前期から経営陣一新し、早期退職者募集を含むリストラおよび海外工場の整理を行い体質改善中。徐々にその効果が出てきており、来期の黒字化の目途が立ってきた。
株エスアイエレクトロニクス	-86	30	-145	63	19	遊技機器向け主力VDP (Video Display Processor) のY3が来期から量産開始予定。販路拡大を目指し営業活動中である。
加賀ハイテック株 (連結)	-8	-72	-577	246	-1,011	今上期より経営陣を一新し、再建に着手するが取扱い商品の需要低迷により業績は悪化。今後、組織変更や改革等による効率化をはかり、新規商材の発掘に努めながら収益回復を目指す。
エー・ディ・エム株	-106	-98	-22	30	-145	民生機器市場から産業機器・メディカルヘルスケア・自動車市場へシフトするが、産業機器分野の需要低迷や競合他社との競争激化により業績が低迷。経営再建をはかるため、2012年11月12日に早期退職者募集を発表しリストラを実施する。
株サイバーフロント (連結)	-	-268	-295	129	-387	エンターテインメント業界で実績ある役員を代表取締役会長に登用し、経営の抜本的に見直しを行うが業績は低迷。年内(12月)中に、今後の方向性を決定する予定。
合計	-719	-394	-2,067	274	-1,731	

加賀電子グループの成長戦略について

◆エレクトロニクス業界の経営環境

デジタル機器の需要低迷により、大手家電メーカーの業績不振など日本のエレクトロニクス業界は厳しい事業環境が続いていますが、自動車・通信・環境・医療などの事業分野を成長市場として、エレクトロニクス商社の活動の幅が広がっております。



収益拡大に向けた加賀電子グループの取り組み

①車載



②無線・通信



③環境



④グローバル化(アジア強化)



加賀電子グループの成長戦略について

①車載

地球温暖化対策や大気汚染防止のため、ハイブリッド車や電気自動車などエコカーが普及、そのエコカーはエレクトロニクス化が進んでいることから自動車分野での電子部品・半導体の需要が増加しています。加賀電子グループもこの流れに乗って勝ち残るため、車載市場への営業活動に注力し、事業領域を拡大していきます。

車載半導体の世界市場規模は、2012年 約1兆8500億円、2020年には約3兆2700億円（矢野経済研究所予測）となっており、自動車分野にはビジネス拡大の可能性あります。

<加賀電子グループ 今期の取り組み>

➤加賀電子

7年前より車載に特化した営業部門を設置し営業活動に注力。その成果が現れ、カーナビゲーション向けHDDおよび半導体の受注増加やEMSビジネスの拡販などにより今期売上高増加。（前期50億円 → 今期予想70億円）

➤エー・ディデバイス（東芝製半導体代理店商社）

7月1日付けで車載に強い東芝セミコンダクター&ストレージ社の関係会社エーエスデバイス社を吸収合併。自動車メーカーへの販路拡大により売上高増加。
（前期100億円 → 今期予想150億円）

加賀電子グループ主な車載関連売上高合計 前期150億円 → 今期予想220億円



加賀電子グループの成長戦略について

②無線・通信

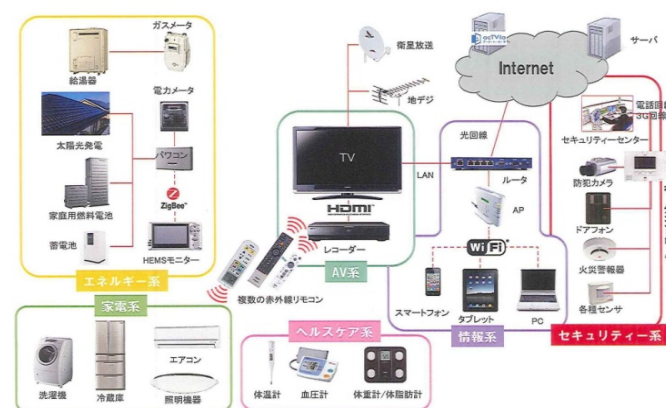
携帯電話からスマートフォンへのシフトに伴い、各半導体メーカーは、次世代の無線通信分野を見据えた事業展開を進めています。加賀電子グループは、携帯端末向け半導体の販売のみならず、携帯端末以外の機器への無線通信機能搭載時代に対応すべく、この新しい市場に参入しています。

半導体の各分野における
売上高成長率
出典: HIS iSuppli

Year-over-Year Semiconductor Revenue Growth Rate Forecast
(Revenue in US Dollars)

	2011	2012
Data Processing	-4.1%	-1.9%
Wired Communications	0.8%	0.7%
Wireless Communications 無線分野	8.5%	10.4%
Consumer Electronics	-1.9%	1.3%
Automotive Electronics	10.0%	2.7%
Industrial Electronics	9.3%	7.7%
Multichip Packages (MCP)	-31.7%	-17.9%

Source: IHS iSuppli Research, July 2012



<加賀電子グループ今期の取り組み>

通信事業者との取引拡大、通信モジュールの拡販

- 国内携帯端末メーカー向けメモリー等半導体や音源IC等
- LTEモバイルルーター、LTEモジュール、USBモジュール、STB等



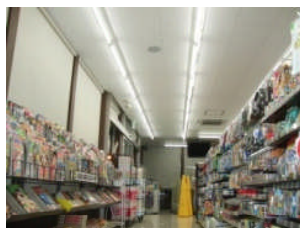
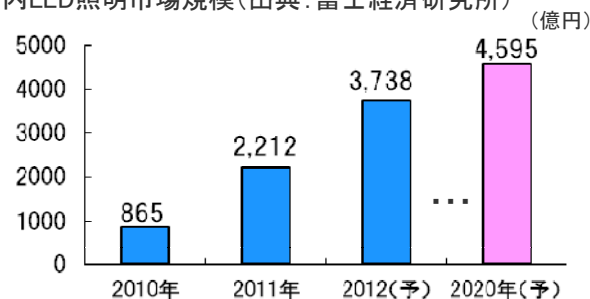
加賀電子グループ 主な無線・通信関連売上高合計 前期50億円 → 今期予想100億円

加賀電子グループの成長戦略について

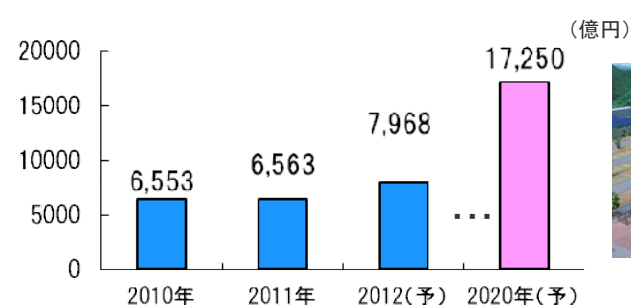
③環境

震災後の電力不足による省エネ関連事業や「固定買い取り制度」に伴う売電事業など、環境分野のビジネスは年々拡大を続けています。加賀電子グループも注目すべき成長市場と位置付け、5年前から専門部門を設置し販売活動を行っています。

国内LED照明市場規模(出典:富士経済研究所)



国内太陽光発電システム市場規模(出展:矢野経済研究所)



<加賀電子グループ今期の取り組み>

LED照明や太陽光発電システムの導入に関するご提案から商品の供給・設置工事および、アフターフォローまで、加賀電子グループがトータルサポートを行います。

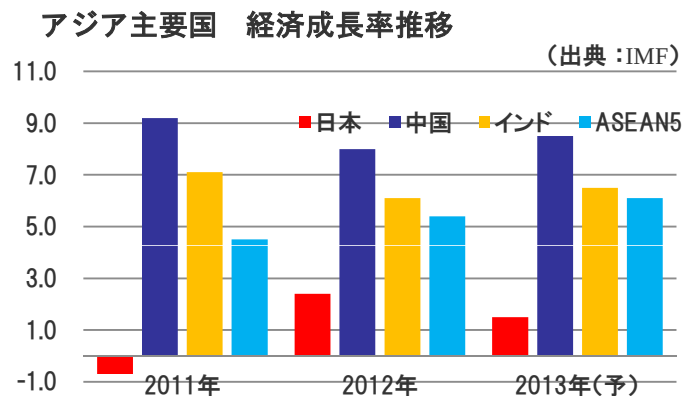
- コンビニエンスストアや量販店の店舗へのLED照明の設置。
- 売電事業主へ「太陽光発電システム」の提案販売。

加賀電子グループ環境関連売上高合計 前期 10億円 → 今期予想 70億円

加賀電子グループの成長戦略について

④グローバル化(アジア強化)

日系企業の海外への生産移管により国内生産が空洞化する中、生産コストが低いアジア地域への注目が一層高まりました。特に経済成長著しい東南アジア地域への拠点設置や人員の増強を行い、ビジネスの拡大を狙います。



(単位:%)

	2011年	2012年	2013年(予)
日本	-0.7	2.4	1.5
中国	9.2	8.0	8.5
インド	7.1	6.1	6.5
ASEAN5	4.5	5.4	6.1

(備考) ASEAN5は、インドネシア、マレーシア、フィリピン、タイ、ベトナム。



<加賀電子グループの今期の取り組み>

- 中国をはじめインド、東南アジア等の成長市場へ進出強化。
- 未進出の国内取引先に、生産コストの安い海外エリアへの生産移管を提言。
- 仕入先・販売先など有力ローカル企業の開拓。
- 電子部品・部材の流通だけでなくEMS^(注1)、VMI^(注2)等付加価値による差別化。

(注1) Electronics Manufacturing Service : 電子機器の開発・製造を受託するサービス

(注2) Vendor Managed Inventory : 顧客の在庫管理を行う機能

加賀電子グループの成長戦略について

◆中国

➤加賀大連：青島事務所開設（7月）

現在中国における加賀電子グループのビジネスは日系企業向けEMSが中心ですが、
今後は青島を拠点として、大手中国家電メーカーに対して冷蔵庫やエアコン向け
半導体（マイコンなど）の拡販をはじめとして、中国での電子部品・半導体の販路拡大を
目指します。



➤加賀香港

加賀香港はEMSの主要拠点として事業を拡大してきましたが、キッチンングビジネスの需要が高まり、
電子部品・半導体部門を開設しました。従来のEMSの伸長と電子部品・半導体ビジネスの開始により
売上高が増加しています。

加賀香港売上高

前期120億円（EMS120億円）→ 今期予想 210億円（EMS190億円、電子部品・半導体20億円）

◆インド

➤加賀デバイスインド

2011年7月加賀デバイスがバンガロールに設立。
インドのエアコンや冷蔵庫向け半導体の営業活動中。
また、無停電電源装置やソーラー・ランタンへの部品供給などの営業活動も
行っています。



加賀電子グループの成長戦略について

◆タイ

➤加賀タイランド

2011年10月に発生した洪水により、アユタヤ工場を閉鎖。

新たに2012年2月にアマタナコン工場を開設しました。顧客の要望に応じてラインの拡張を順次行っています。(前期120億円→今期130億円)

※その他

車載ビジネスの強化。日系自動車メーカーへの電子部品・半導体の販売を拡充するため電子部品・半導体の専門営業拠点を開設予定。



◆インドネシア・フィリピン

➤インドネシア連絡事務所

既存の日系音響機器メーカーや自動車メーカー等へキittingを中心とした営業活動を行っています。また、新規日系企業やローカル企業の開拓にも注力しています。

➤フィリピン連絡事務所

日系家電メーカーや事務機器メーカー等へキittingを中心とした営業活動を行っています。インドネシア同様に、新規日系企業やローカル企業の開拓にも注力しています。



◆その他

➤カンボジア・ミャンマー・ラオス: アジアの新規EMS生産拠点として調査を行っています。

➤アメリカ: 車載ビジネス開拓のため東部デトロイトに拠点設置を検討を行っています。

➤ワールドカップ、オリンピックの開催で成長が見込まれるブラジルへの進出の検討を行っています。

次世代パワー半導体用のSiC基板製造を手掛ける 「サイコックス」社の販売パートナーとして協業

小型化イメージ

主な用途＝太陽光パネルのパワーコンディショナー、
EV/PHV用DC/DCコンバータ等

本基板により、変換効率の向上や小型軽量化を実現。

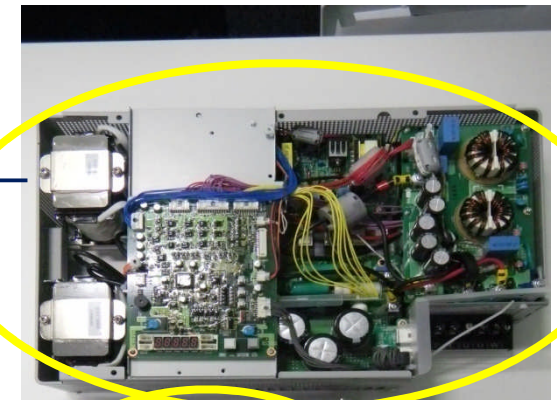
会社名 : (株)サイコックス SICOXS CORPORATION

設立日 : 2012年6月1日

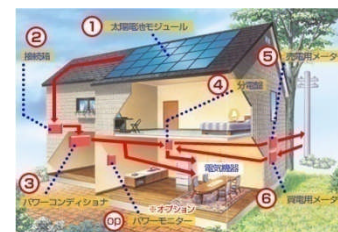
代表者 : 加藤光治

事業内容: シリコンカーバイド(SiC)基板の製造・販売、
SiC半導体部品加工の受託製造など

従来の
パワーコンディショナー



本件採用後の
パワーコンディショナー
サンプル





加賀電子株式会社

〒101-8629

東京都千代田区外神田3-12-8

住友不動産秋葉原ビル

問合せ先: 広報室

TEL: 03-4455-3131

FAX: 03-3254-7132

E-mail: webmaster@taxan.co.jp

<http://www.taxan.co.jp>